

「龍正院」

市では、市民の皆さんに市内の施設や発展状況を紹介し、市政に対する認識と理解を深めてもらおうと、毎年4回、施設見学会を開催しています。「施設見学会紙上ツアー」では、今までに見学した施設から、好評だった見学先にスポットライトを当て、皆さんに紹介します。

見どころを教えてください!

龍正院住職に聞きました

住職

高野 慈泉さん



龍正院には、国の重要文化財に指定される仁王門、県の文化財に指定される本堂や銅造宝篋印塔など多くの貴重な文化財があります。

また本年は、仏像の前の扉を開けて参拝者に公開する「御開扉」を行っています。御開扉が行われるのは不定期ですが、本年は坂東三十三所観音霊場で午歳特別結縁巡礼が行われているため、御開扉しています。扉は老朽化しているため普段は全開にはしてはみませんが、8月9日の「四万八千日」では扉を大きく開く予定です。皆さん、ぜひ龍正院に足を運んでください。



国指定重要文化財の仁王門



元禄9(1696)年に建立された本堂

龍正院は、平安時代初期の承和5(838)年、慈覚大師の開基と伝えられています。坂東三十三観音霊場の第28番札所で、通称「滑河観音」ともいわれ、延命・安産・子育ての観音として全国から参拝者が訪れます。

境内に一步入ると国の重要文化財に指定されている、かやぶきの仁王門が迎えてくれます。この仁王門に飾られている大きな注連縄は、毎年1月8日に周辺に住む人たちによって奉納されています。江戸時代の享保年間(1716～1736年)のころ、大きな火災が発生した際に、仁王門に安置された仁王様が火をおおり返して本堂や民家を守ってく



大勢の人でにぎわう四万八千日

れたという言い伝えがあり、このことに対する感謝を表すためです。

また毎年、8月9日に「四万八千日」と呼ばれる夜祭りがあり、この日にお参りすると、4万8,000日分お参りしたことと同じ御利益があるといわれています。このほかにも、伝統ある行事が数多く行われます。

見学したい人は

参詣はいつでもできます。

参詣料=無料

※くわしくは龍正院(☎96-0217)へ。



住所:滑川1196

編集後記

わたしの両親は、80歳を超えました。以前から物忘れが多くなったようで、認知症を心配しています。最近では、認知症の人が徘徊、行方不明となり、別の場所で7年ぶりに身元が判明したというニュースも報道されました。実際、認知症になると、家族の戸惑いと不安、悩みが生じるし、本人もつらいと思います。わたしたち一人一人が、症状が出る前の対応、認知症のケアなど、認知症についての正しい理解を持つことが大切ですね。

平成26年7月15日号 No.1271

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。